

証し 「感謝と願い」

山本千晶

出エジプト記15章1節 2節

モーセ海の歌より「モーセとイスラエルの民は主を賛美してこの歌をうたった。
主に向かってわたしは歌おう。
主は大いなる威光を現わし
馬と乗り手を海に投げ込まれた。

主はわたしの力、わたしの歌
主はわたしの救いとなってくださった。
この方こそわたしの神、わたしは彼をたたえる。わたしの父の神、わたしは彼をあがめる。」

時の経つのは早いもので仙川教会のメンバーに加えていただいてこの6月で丸2年になります。今日はこの2年間の感謝の思いとこれからの願いをお伝えしたいと思います。

数年前、山岸先生が聖歌隊の練習のお手伝いのお話しをしてくださったことが教会を訪れるきっかけとなりました。メンバーのみなさまと初対面の時には少し緊張しましたが、リーダーの太田兄が中心となって朗らかに活発に練習に参加されるみなさまのおかげで回を重ねるごとに打ち解けることができました。

毎週の礼拝前の教会学校では朝のひととき少人数での交わりの中に身近な出来事と聖書の御言葉の繋がりを実感し心が和んでいます。

イースター、クリスマス、ペンテコステの礼拝も執事の井馬姉が中心となり委員会が立ちあげられ共に豊かな礼拝を捧げることができ満たされています。その都度、みなさまとの熱心な会話の交わりに貴重な時間が与えられています。今はコロナの影響で活動には工夫と変化を強いられています。不安や心配な思いが募りそうな今こそ、このような私自身の体験から得た安心できる場所である教会の存在を多くの人に知ってもらいたい、との願いが強まっています。

昨年の春、ある困った出来事が起こりました。私は「そうだ、教会に行こう！祈っていただこう！」と、迷わず教会に向かいました。そこで山岸先生、杉井姉、安部防おり姉に相談にのっていただき、祈っていただき問題は解決し心は平安になりました。さらにその出来事がきっかけで新たに仙川でのクワイアの働きが与えられ志津子先生にも共にミニストリーの働き人として祈っていただいています。こうして多くの方との交わりの中、育てられ2年間、感謝いっぱいの中であっという間に時が過ぎました。

昨年の年明け以来コロナ禍が続き、これから先どうなっていくのか予想もつかない世の中になりました。今、私が一番気がかりなこと、それは子どもたちの将来です。去年は多くの友人知人にお孫さんが産まれました。教会でもデレクさん恵さん御夫妻にエレスちゃんが産まれました。今まで経験したことのない状況での出産、子育てが始まっています。子どもたちには安心して成長してもらいたい。教会で礼拝を捧げるたびにこの思いが募っています。

先週のペンテコステ礼拝の中で安部兄のお証しを拝聴しました。生涯をかけてマレーシアの子どもの家の働きを担われる志しに感銘を受けました。特に共に歩まれるかおり姉の決意に感動し今の自分を思い巡らしました。昨年の10月にTAMAハレルヤメンバーと共にマレーシアに行く計画を立てていました。クワイアのみなさまと「子どもの家に教会を建てようコンサートをテーマのツアーにしようね」とマレーシアの子どもたちと一緒に歌える日を夢みていました。この夢がかなう日はいつになるのでしょうか。

ペンテコステ礼拝で安部兄のお証しを伺ったその夜のことでした。田代姉が紹介してくださったCFFM (CFFマレーシア)の動画配信を拝見しました。その動画はCFFMの創設者二子石章氏と安部兄の対談でした。どのような思いを抱いて創設されたのか、二子石氏ご本人から伺える貴重な内容でした。現在84歳でいらっしゃる二子

石氏が「子どもたちの未来のために」と、働きだした年齢が63歳だったことを伺ったとき、驚きました。今の私の年齢です。これからでも新しく何かできることがあるかも、と勇気をいただきました。

翌、月曜日は3年の年月をかけてリニューアル工事を終え来年オープンするコンサートホールの申し込み手続きに出かける日でした。3年ぶりに来年の夏、ホールがオープンします。このホールのスタッフはわたしたちの賛美いっぱいプログラムをいつも気に入ってくださり親身になってステージ作りを手伝って下さる方です。二年前のクリスマスコンサートを終えた日はおりしもリニューアル前のホールの使用最終日でした。

「3年後のホールのこけら落としにはぜひ、みなさんに使ってもらいたいな」

「はい、私たちも、その時の再会を楽しみに練習を続けます」

お互いに3年後の再会を願って交わした会話は忘れられません。そんな場面を思いだしながら来年に向けての手続きをしている時、叶わなかったマレーシアでのコンサートが私の中でひとつに繋がりました。マレーシアでのコンサートは叶わなかったけれど、来年このホールにマレーシアから子どもたちを招いて一緒にコンサートができたらしとの思いが浮かんできました。どのような形で導かれるのか分かりませんが、神さまのご計画であるならば事が起こされ実現するのではないかと今、神さまに期待して祈り始めています。

指揮をしている時、目の前で賛美されるお一人おひとりから溢れる思いが伝わってきます。私自身も指揮や賛美をしている時、いつも実感することがあります。悲しみや苦しみの中にも賛美を口にするることによって、神さまに励まされ癒され支えられ、やがて神さまを喜ぶ思いに満たされるというプロセスが与えられるのです。神さまに向かって賛美することにより思いが変えられていく体験。この体験を子どもたちにも伝えていきたい。賛美することによって子どもたちの未来が護られていって欲しいと願わずにはいられません。

昨年のマレーシア行きの計画が来年マレーシアの子どもたちを招く計画へと今、思いは変えられました。教会の子どもたちも一緒に繋がってくれたら、子どもたち同士ひとつとなってステージで賛美することが出来たら、そして許されるならば定期的なコンサートになってくれたら、と希望に胸がふくらみます。私の個人的な思いであつたら実現することはないでしょう。しかし、神さまのご計画をこの私を用いて知らせてくださっているのなら叶うことと御心を伺う祈りを捧げています。コロナの中で不自由を強いられている子どもたちにハレのステージに立ってほしい。そのステージには今までのように地域のクワイアに加え賛同して下さる有志の方々も一緒に集い歌う、そして遠くマレーシアから日本を訪れた子どもたちと交流の場も用意できたら、と夢はどんどん広がります。

今、私は教会で聖歌隊のリーダーを担わせていただいています。賛美の力を携え霊の戦いの最前線に立つ聖歌隊の働きが整えられ豊かにされ守られますように、またその賛美の上に大いなる主の栄光が現わされますように祈りながら一緒にしています。さらにグループハーベストや歌声カフェオアシスのように年齢を重ねて賛美される先輩方のお姿に憧れています。教会は世代を超え地域を越え国を越えてひとつとなって賛美を捧げることができる存在です。未来を担い生きていく子どもたち孫たちのためにできること。そのひとつにマレーシアの子どもたちと集うコンサートの開催を願い祈り始めた私です。

フィリピの信徒への手紙 4章4～7節

「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いを捧げ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」

洗礼を授かって来月6月でちょうど20年になります。この節目の時にこのようにみなさまに証しする機会が与えられたこと心から感謝を捧げます。

ご一緒に祈ってくだされば心強いです。

ハレルヤ。

2021年5月30日